

江の川流域水害対策計画の 実施に係る取組状況

令和7年2月10日





江の川流域水害対策計画の概要(令和6年3月25日策定)

計画対象区域：江の川粟屋地点上流域

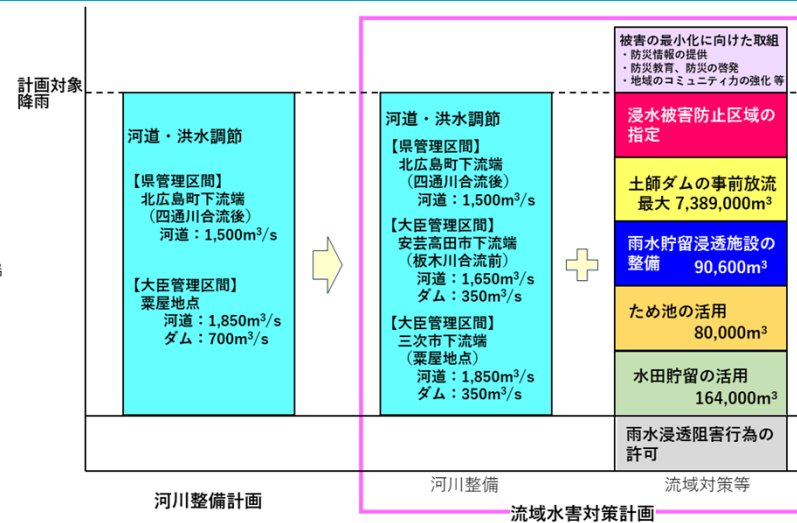
計画対象河川：江の川及び42支川

計画期間：概ね20年間

計画対象降雨：土師ダム上流 昭和47年7月降雨
土師ダム下流 令和3年8月降雨



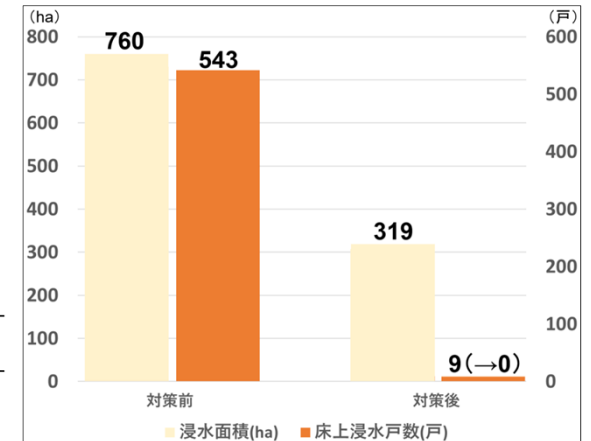
位置図



※計画対象降雨
土師ダム上流・下流(県管理区間)：平成11年6月
土師ダム下流(大臣管理区間)：昭和47年7月

※計画対象降雨
土師ダム上流：昭和47年7月
土師ダム下流：令和3年8月

浸水被害対策の基本的な考え方及び3つの視点からの対策

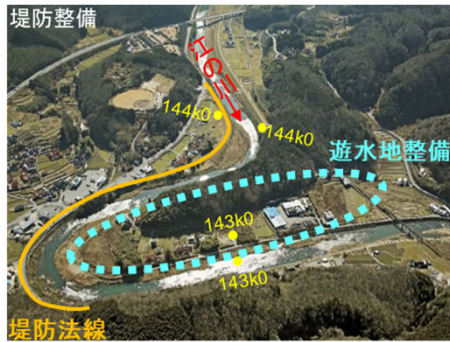


浸水被害対策の効果

①氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策 (ハザードへの対策)

流域全体で雨水や流水等を貯留する対策や洪水を流下させる対策、氾濫水を制御する対策をそれぞれ充実し、効果的に組み合わせ、グリーンインフラの考えを踏まえて、自然環境が有する多様な機能も活かしながら実施する。

- ◆堤防整備、河道掘削、遊水地整備
- ◆下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備、「田んぼダム」・ため池の活用
- ◆利水ダム等による事前放流等の実施



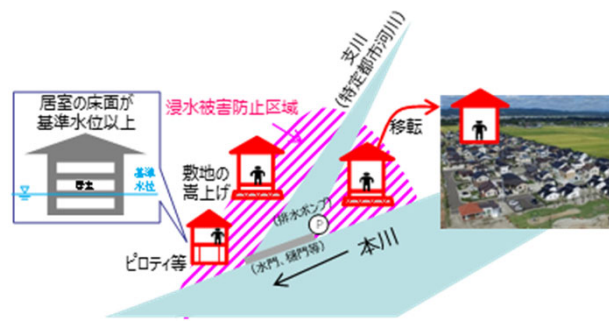
三次市 米丸・船所地区

※堤防法線等は今後の調査等の結果により変わる場合があります。

②被害対象を減少させるための対策 (暴露への対応)

まちづくり等を考慮し、浸水リスクがあるエリアにおける宅地の嵩上げや建築物の構造の工夫等の浸水軽減対策を講じる。

- ◆土地利用規制(浸水被害防止区域・貯留機能保全区域の指定等)の方針
- ◆居住誘導(立地適正化計画等の早期整備)



浸水被害被害防止区域における居住誘導・住まいづくりの工夫のイメージ

③被害の軽減、早期復旧、復興のための対策 (脆弱性への対応)

流域全体で「避難体制の強化」「経済被害の軽減」「早期復旧・復興」等のための対策を組み合わせ、被害を最小化する。これらの取組を推進するための水災害リスク情報を充実させる。

- ◆国、県、市町、民間など多機関が連携したタイムラインの活用
- ◆マイ・タイムラインの普及
- ◆避難行動要支援者を含めた住民一人一人の避難計画の作成促進
- ◆洪水時の河川情報の充実
- ◆被害発生時の情報収集・情報伝達の迅速化(水防団等による)
- ◆各地域の浸水深・時間による社会経済被害軽減に資する取組や早期復旧・復興対策の検討



防災ワークショップ
(令和4年11月5日：安芸高田市)



防災教育
(令和5年5月19日：十日市小学校)

1. 氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策 (ハザードへの対策)

◆河川管理者(国土交通省)が行う河川の整備

- 江の川水系河川整備計画【大臣管理区間】(変更)を令和6年12月に策定。
- 船所地区の堤防整備、米丸地区の遊水地整備を推進中。

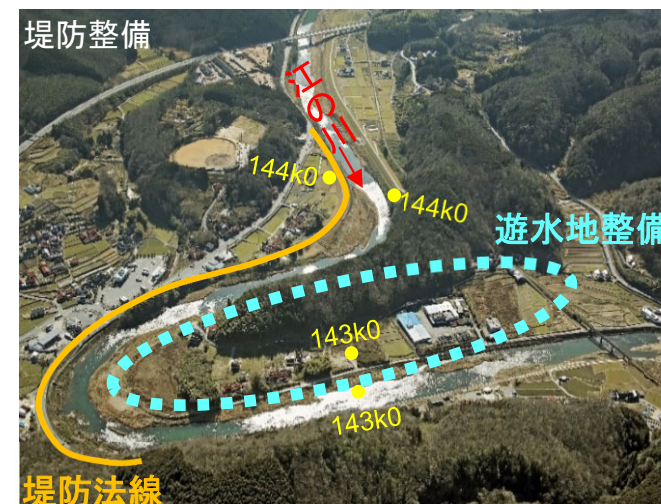
河川整備計画に基づく広島県域での整備中及び今後予定の治水対策箇所

河川	地区名	区間	整備概要
江の川	米丸	142.4k付近～143.6k付近	遊水地
	船所	143.3k付近～143.9k付近	堤防整備
	上村	146.2k付近～177.1k付近	堤防整備
	秋町	150.1k付近～151.0k付近	堤防整備
	上志和地	151.2k付近～153.8k付近	堤防整備
	深瀬	152.7k付近～154.6k付近	堤防整備
	川立	153.8k付近～155.2k付近	堤防整備
	長屋(桂)	172.4k付近～172.8k付近	堤防整備
	下入江(上)	174.8k付近～175.0k付近	堤防整備
	上村、青河	146.0k付近～146.8k付近	樹木伐採、掘削
	秋町、片山	148.2k付近～149.8k付近	樹木伐採、掘削
	秋町、下志和地	150.4k付近～151.2k付近	掘削
	甲立、瀬戸	157.0k付近～158.4k付近	掘削
	篠原、高田原	159.4k付近～159.6k付近	掘削
	市ヶ原、法恩寺	160.8k付近～161.0k付近	樹木伐採、掘削
	市ヶ原、法恩寺	161.6k付近～161.8k付近	掘削
	市ヶ原、下小原	162.6k付近～163.4k付近	樹木伐採、掘削
	高屋、柳原	163.6k付近～164.0k付近	掘削
	内堀、国司	165.2k付近～168.4k付近	樹木伐採、掘削
	高樋堰	167.2k付近	堰改築
	常友、下入江	169.2k付近～170.2k付近	樹木伐採、掘削
	常友、下入江	172.4k付近	樹木伐採、掘削
	桂、下入江	173.8k付近～174.0k付近	掘削
	桂、下入江	174.4k付近	樹木伐採、掘削
	桂、下入江	175.4k付近～175.8k付近	掘削

※赤字は河川整備計画(平成28年2月策定)から追加もしくは変更となる整備内容

- 効果的な河川整備(河道掘削、遊水地整備等)を着実に実施することで治水安全度の向上を加速化し、適切に維持管理を実施する。
- 河道掘削においては、河川環境への影響の回避・低減を図るとともに、遊水地整備においては、平常時は憩いの空間や多様な生物の生息・生育・繁殖環境としての湿地機能を有し、豪雨時には防災・減災に寄与する施設整備を検討する。
- 既存ダム(土師ダム)を洪水調節に最大限活用するため、事前放流により容量を確保し、ダム下流の浸水被害軽減に努める。
- 平成28年2月策定の江の川水系河川整備計画【国管理区間】から、追加もしくは変更となる整備内容については、河川整備計画を変更する。

三次市米丸、船所地区



→至141k600(栗屋)

※堤防法線等は今後の調査等の結果により変わる場合があります。

特定都市河川の整備に関する事項

◆河川管理者(国土交通省)が行う河川の整備

遊水地整備



三次市米丸地区(江の川142.4k付近～143.6k付近)

R6年度の取組状況

- ・用地買収



凡例
R6年度対象箇所:

- ・概略設計(R6～7年度の2か年で実施)

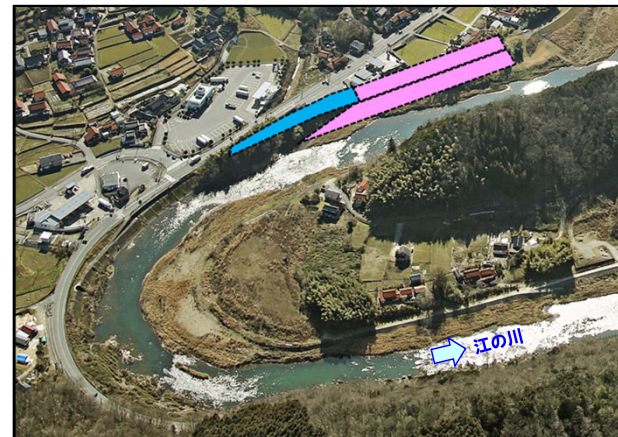
堤防整備



三次市船所地区(江の川143.3k付近～143.9k付近)

R6年度の取組状況

- ・契約締結



凡例
R5年度対象箇所:
R6年度対象箇所:

堤防整備



三次市秋町地区(江の川150.1k付近～151.0k付近)

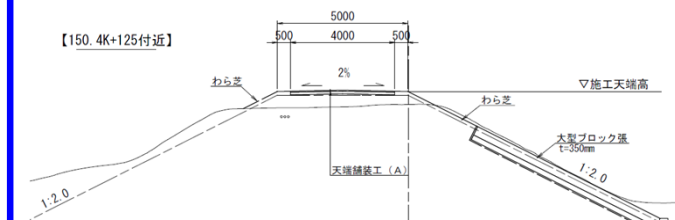
R6年度の取組状況

- ・工事实施(R6年度完了予定)



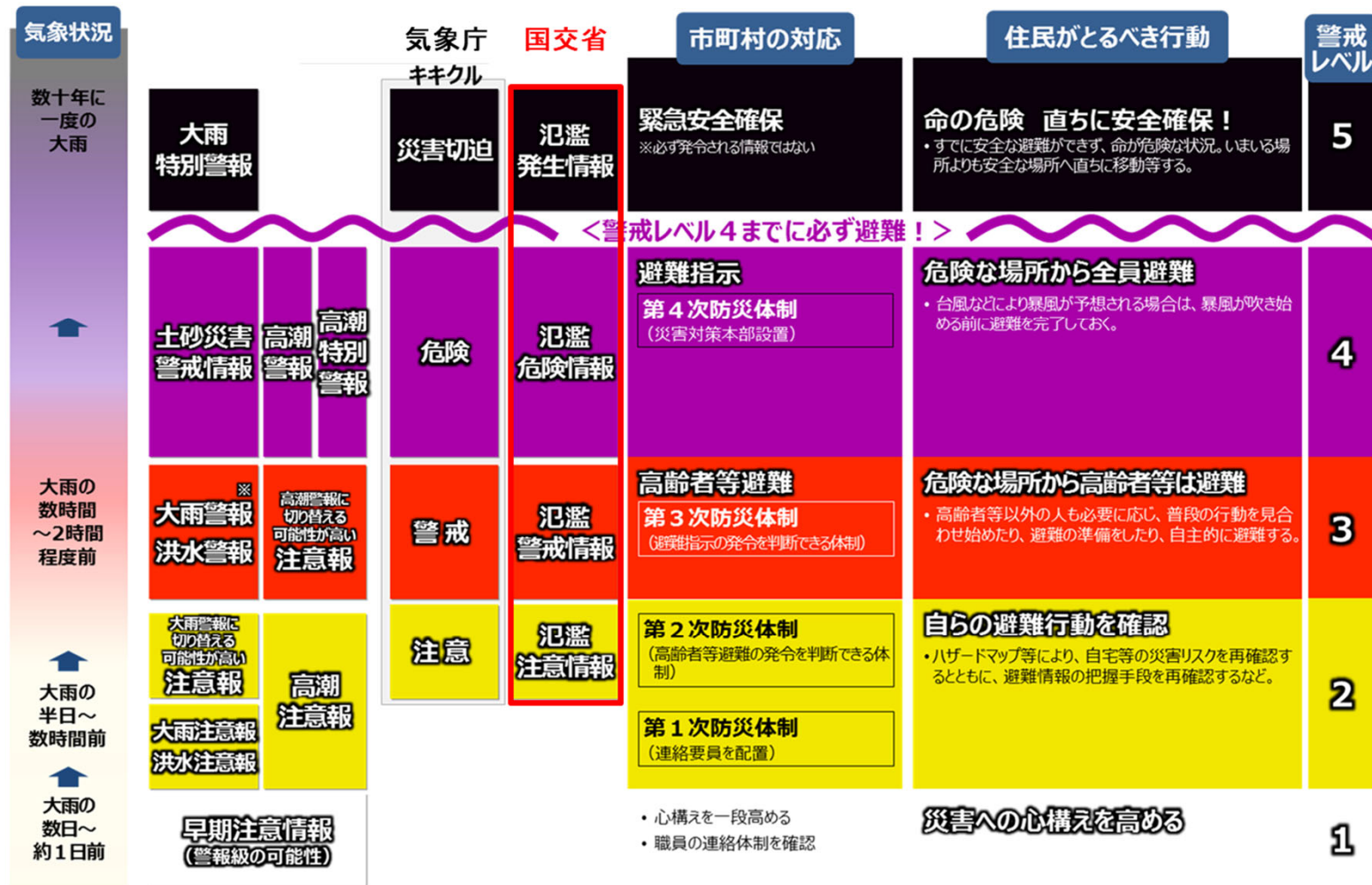
標準断面図

【150.4k+125付近】



3. 被害の軽減、早期復旧、復興の ための対策(脆弱性への対応)

◆洪水時及び発災時の情報収集・伝達



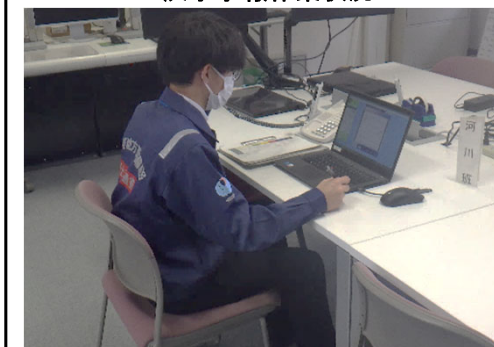
(参考)江の川上流洪水予報

R6洪水予報発表状況

NO.	標題
1	江の川上流氾濫警戒情報 (江の川上流洪水予報第1号)
2	江の川上流氾濫注意情報(警戒情報解除) (江の川上流洪水予報第2号)
3	江の川上流氾濫注意情報解除 (江の川上流洪水予報第3号)

NO.	標題
1	馬洗川氾濫注意情報 (馬洗川洪水予報第1号)
2	馬洗川氾濫注意情報解除 (馬洗川洪水予報第2号)

洪水予報作業状況



「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

◆大規模氾濫に関する減災対策

1-4. 多機関連携型タイムラインの検討・見直し

江の川上流の多機関連携型タイムライン（江の川上流水害タイムライン）について、出水期後に、令和6年度出水時の対応状況の振り返り・タイムラインの改善のための課題と解決方針の意見交換を実施。
→意見交換の結果、タイムライン関係機関内の情報共有を効率化する手法を検討する方針を決定した。

	期間	レベル到達
①	6/21～23	レベル1
②	7/1～2	レベル1
③	7/10～11	レベル1
④	8/24	レベル1
⑤	8/27～31	レベル1
⑥	9/12	レベル1
⑦	11/1～3	レベル3

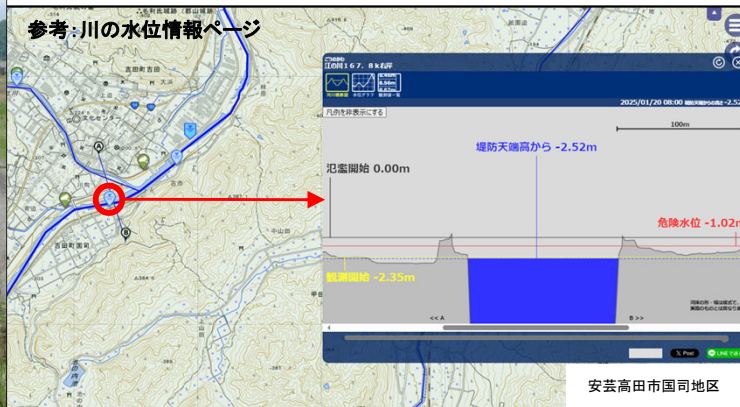
R6タイムライン発動状況

タイムラインレベル	タイムラインレベル0 (3日前準備)	タイムラインレベル0 (2日前準備)	タイムラインレベル1	タイムラインレベル2	タイムラインレベル3	タイムラインレベル4	タイムラインレベル5
警戒レベル	—	—	警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3相当	警戒レベル4相当	警戒レベル5相当
目標	内部調整	機関調整	地域調整	避難（内水）	早期避難（外水）	避難（外水）	緊急対応
状況	・3日後に台風または前線が江の川流域に影響するおそれ	・2日後に台風または前線が江の川流域に影響するおそれ	・水防団待機水位の超過 ・内水氾濫発生のおそれ	・氾濫注意水位超過 ・内水氾濫発生	・避難判断水位超過	・氾濫危険水位超過 ・3時間以内に、氾濫する可能性のある水位に到達する見込み	・堤防の決壊 ・土砂災害の発生
気象情報	洪水 ・早期注意情報（警戒レベルの可能性） 【目安：3日後に影響】	洪水 ・早期注意情報（警戒レベルの可能性） 【目安：2日後に影響】	洪水 ・早期注意情報（警戒レベルの可能性） 【目安：1日後に影響】	洪水 ・洪水注意情報（注意） ・大雨警戒（浸水害）	洪水 ・洪水警戒（警戒）	洪水 ・洪水警戒（警戒）	洪水 ・大雨特別警戒（浸水害） ・洪水警戒（災害切迫）
土砂				・大雨注意情報 ・土砂災害に関するメッシュ情報（注意）	・大雨警戒（土砂災害） ・土砂災害に関するメッシュ情報（警戒）	・土砂災害警戒情報 ・土砂災害に関するメッシュ情報（非常に危険）、（極めて危険）	・大雨特別警戒（土砂災害）
河川情報				・氾濫注意情報	・氾濫警戒情報	・氾濫危険情報	・氾濫発生情報
避難情報					・高齢者等避難	・避難指示	・緊急安全確保
住民等の行動	・心構えを高める			・避難行動の確認	・高齢者等は避難 ・他の住民は準備	・避難	・命を守る最善の行動

参考：江の川上流水害タイムラインの発動条件

17. 危機管理型水位計を用いた河川監視の強化・情報提供

20. 簡易型河川監視カメラを用いた河川監視の強化・情報提供



危機管理型水位計設置箇所数（令和7年1月末時点）

令和6年度設置箇所数 （累計）	3箇所 （35箇所）
--------------------	---------------



簡易型河川監視カメラ設置箇所数（令和7年1月末時点）

令和6年度設置箇所数 （累計）	5箇所 （16箇所）
--------------------	---------------

◆大規模氾濫に関する減災対策

30-1. 小中学校などと連携した江の川上流の洪水の特徴を踏まえた水害(防災)教育の拡充

■特定都市河川流域内の小中学校へ出前講座を実施。

安芸高田市立甲田中学校 (R6.6月)



三次市立川地小学校 (R6.9月)



32-2. ハザードマップやタイムラインを考慮した防災ワークショップの開催住民一人一人の避難計画(マイ・タイムライン)の普及

■三次市とマイ・タイムライン作成会を共同実施。

R6.5月



R6.7月



◆洪水時及び発災時の情報収集・伝達

既存の行事等への啓発の組込

第10回防災フェア（R6.11月開催）

流域治水の取組の紹介



三次市自主防災組織代表者会議(R6.11月開催)

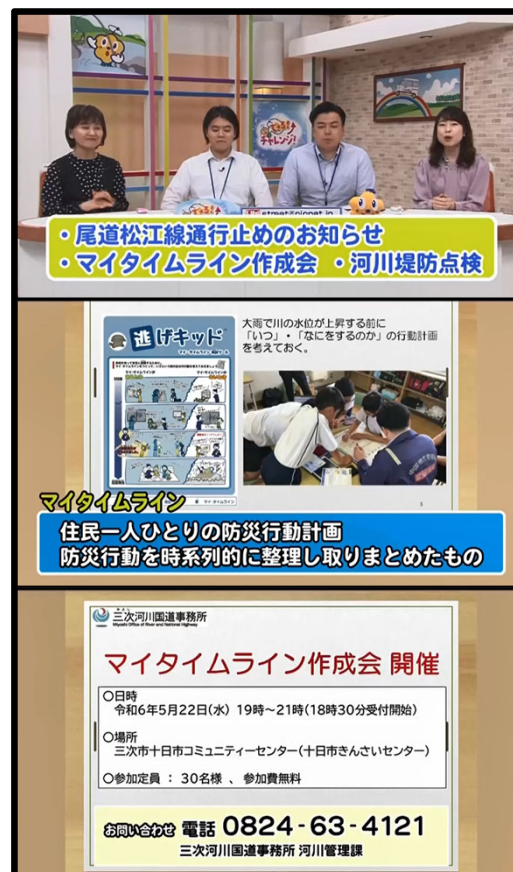
マイ・タイムラインの説明



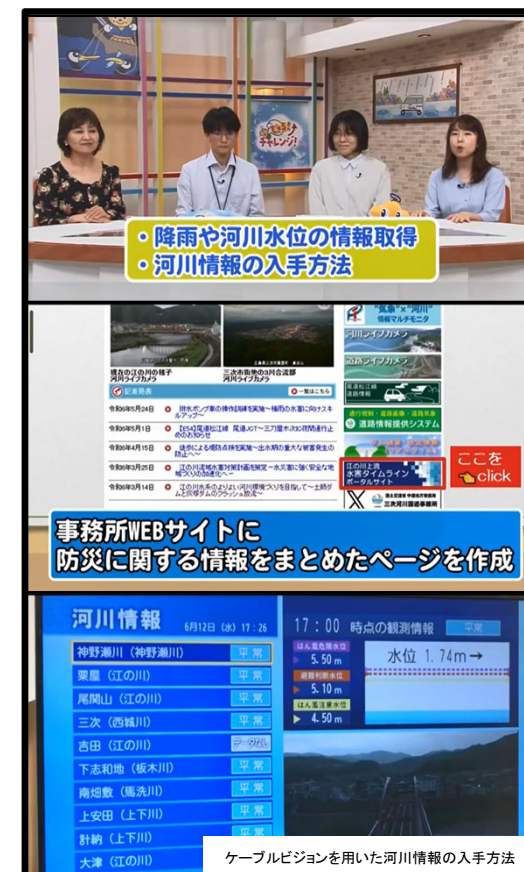
放送メディアを活用した情報の伝達

■住民の方々へ防災情報をはじめとした身近で有益な情報を提供することを目的に、(株)三次ケーブルビジョン(ピオネット)と連携し、情報発信を実施。

R6.5月放送



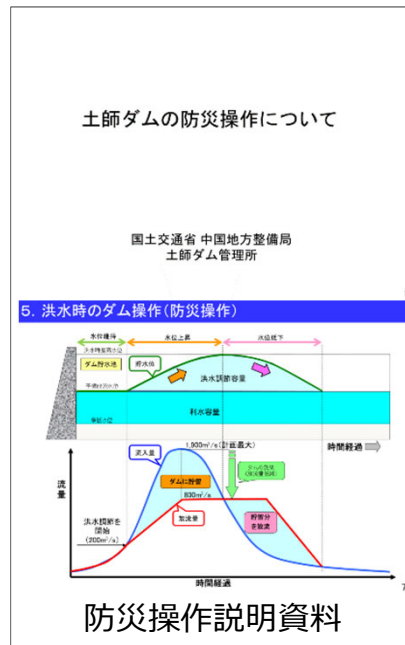
R6.6月放送



◆洪水時及び発災時の情報収集・伝達

13. 受け手の多様性に配慮した効率的な情報入手方法の周知手法の検討

■ 効率的な情報入手方法の検討だけでなく、幅広い表層ダイバーシティを視野に入れた情報ツールの検討を行う。

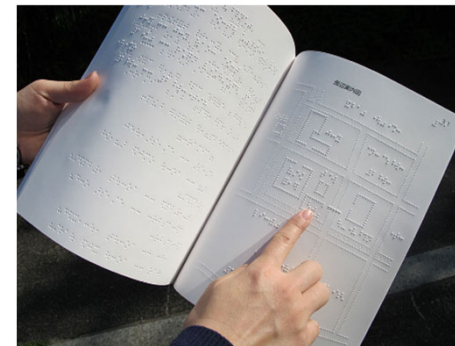


情報入手ツールの検討

・ 防災無線 ・ 防災アプリ ・ タイムライン etc.

・ 他にも    YouTube

情報ツールの検討



点字パンフレット



外国語資料



音声ガイド





広島県が行う河川の整備 ~江の川~

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策

第4章 特定都市河川の整備に関する事項

第1節

河川工事の目的、種類及び施行の場所

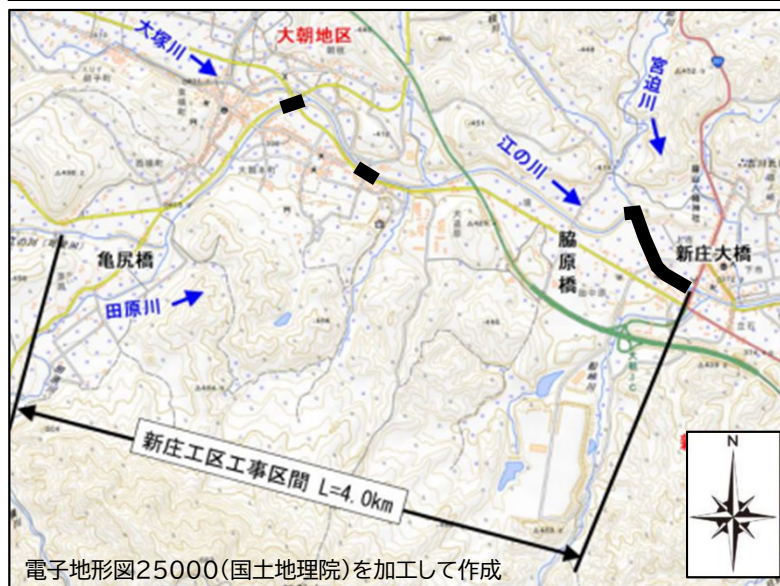
江の川本川においては川東大橋から上流2.9km、小長者橋から下流6.0km、新庄大橋下流から上流4.0kmの区間について、主に河道拡幅により必要な河積を確保するなどの河川改修を行い、北広島町壬生地区、川東地区、川西地区、川戸地区、新庄地区、大朝地区において、平成11年6月相当の洪水に対して集落地における家屋浸水被害の防止を図ります。



— : 工事实施済箇所
— : R6年度整備箇所



▼R6年度整備箇所



具体的な内容

河道拡幅

令和6年度取組状況

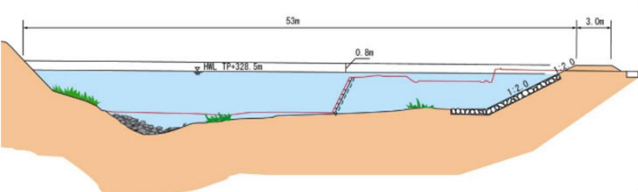
■工事

設計、用地取得済み区間において、河道拡幅を実施中。現在は川戸工区において整備を実施中。

今後の予定

継続実施

整備イメージ横断面図



広島県が行う河川の整備 ~志路原川~

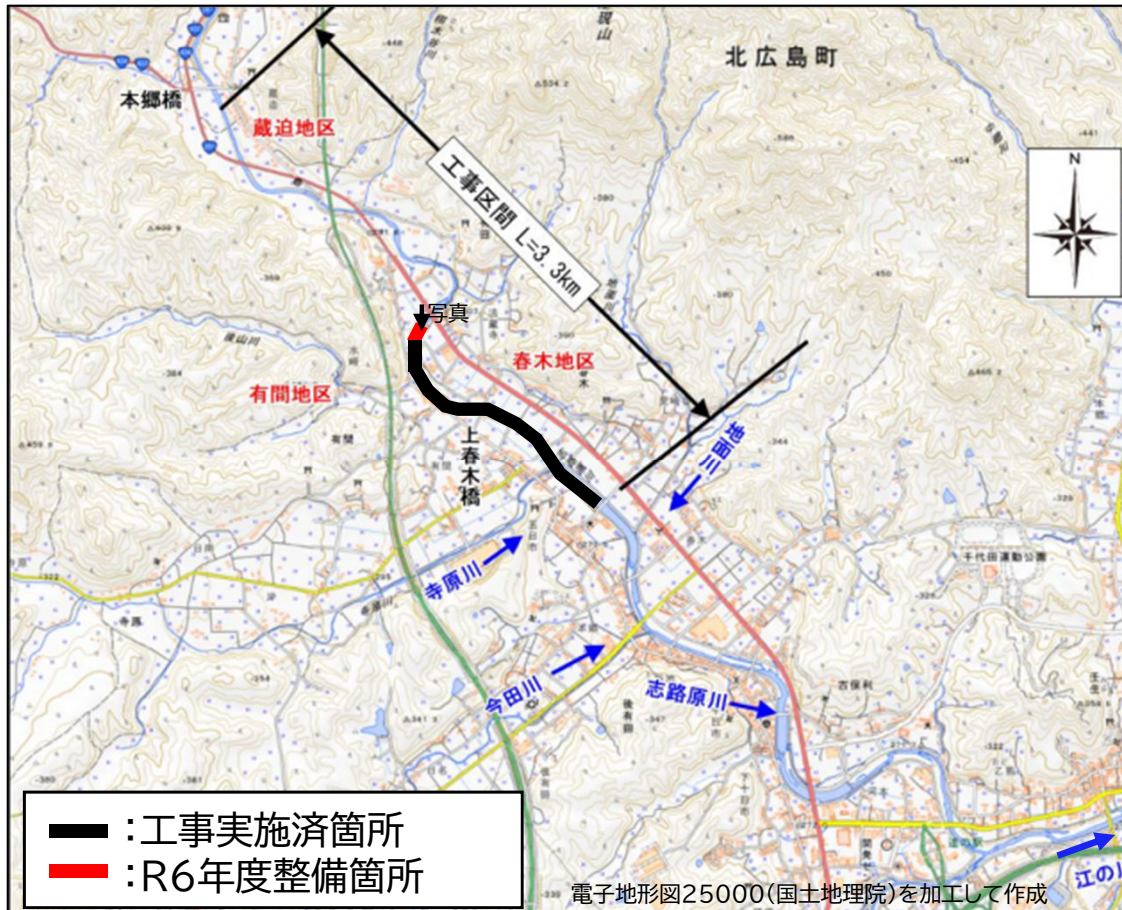
① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策

第4章 特定都市河川の整備に関する事項

第1節

河川工事の目的、種類及び施行の場所

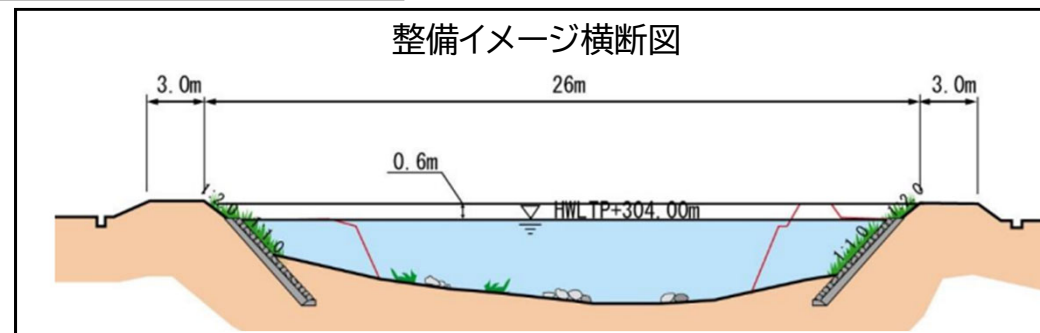
地面川合流点から上流 3.3km区間について、主に河道拡幅により必要な河積を確保するなどの河川改修を行い、北広島町有間地区、春木地区、蔵迫地区において、平成11年6月相当の洪水に対して集落地における家屋浸水被害の防止を図ります。



▼R6年度整備箇所



具体的な内容
河道拡幅
令和6年度取組状況
■工事 設計、用地取得済み区間において、河道拡幅を実施中。
今後の予定
継続実施



広島県が行う河川の整備 ~多治比川~

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策

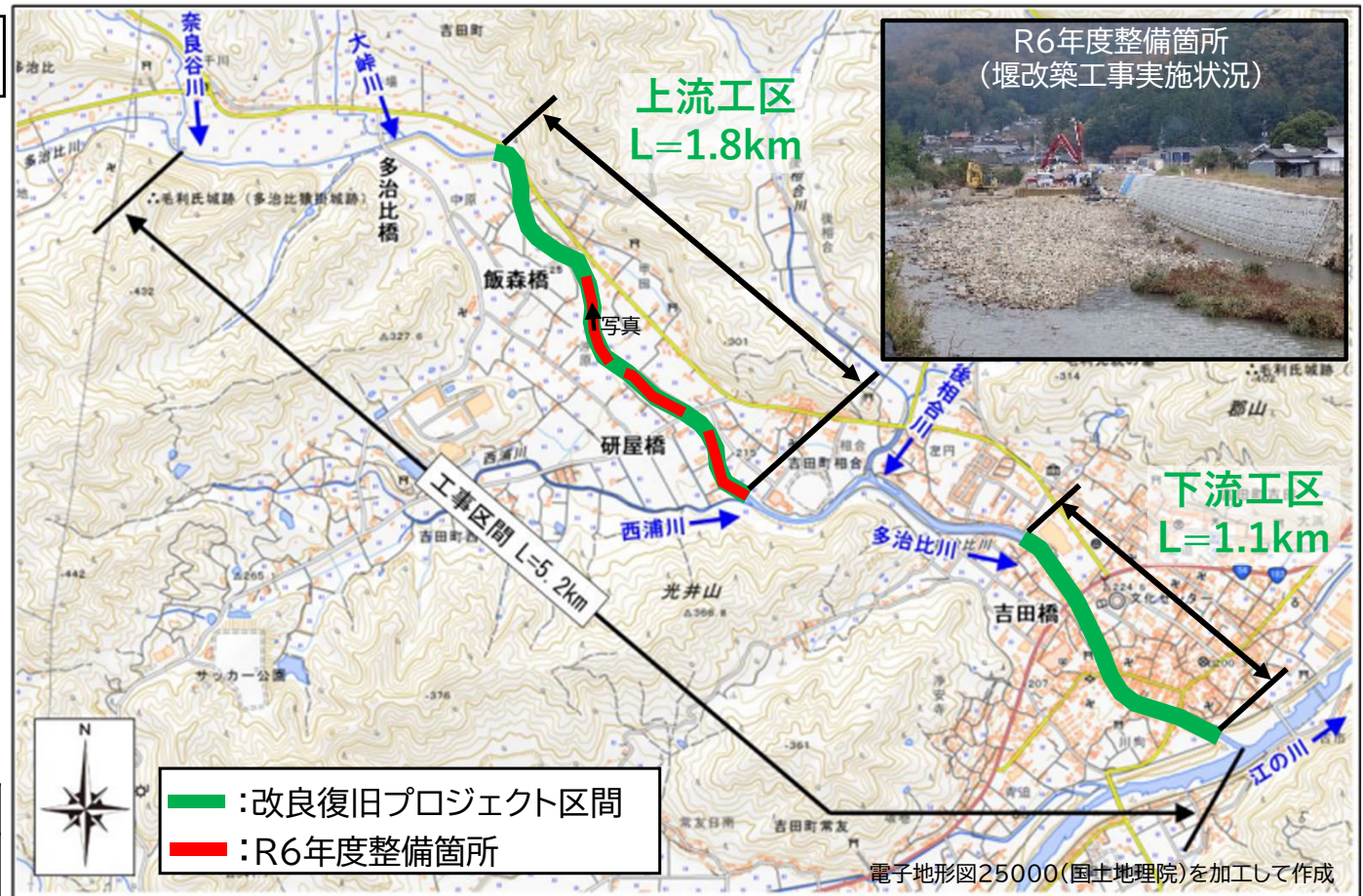
第4章 特定都市河川の整備に関する事項

第1節

河川工事の目的、種類及び施行の場所

江の川合流点から上流5.2km区間について、河道拡幅や堤防嵩上げ等により必要な河積を確保するなどの河川改修を行います。令和3年豪雨改良復旧プロジェクトにより、令和9年度までに、約2.9km区間において集中的に改修を行い、令和3年8月洪水に対して、浸水被害の防止を図ります。

—:流域水害対策計画区間(整備計画区間) L=5.2km
—:改良復旧プロジェクト区間 L=2.9km



具体的な内容

河道拡幅・堤防整備

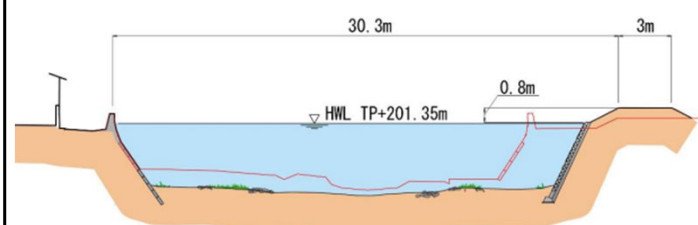
令和6年度取組状況

- 用地測量・用地取得
用地取得に着手
- 工事
河道拡幅、堤防整備を実施中

今後の予定

継続実施

整備イメージ横断面図



改良復旧プロジェクト区間行程(L=2.9km)

工種	R4	R5	R6	R7	R8	R9
測量設計	■	■	■	■	■	■
用地補償		■	■	■	■	■
工事		■	■	■	■	■

12

X(旧Twitter)等を活用し、平常時は防災意識向上に係る情報、洪水時は注意喚起や避難情報発令に関する情報発信等を行っている。



フォローする

【県内の河川で氾濫の危険性が高まっています】

河川が氾濫するおそれが高まっています。
浸水想定区域等にお住まいの方は、市町から発令される避難情報に留意し、安全な場所への速やかな避難を心掛けてください。

避難情報は、広島県防災Webから確認できます。
bousai.pref.hiroshima.jp/?p=evacuation%...



2024年11月02日 11:19 · 1万 表示



フォローする

【県内各地 警戒レベル4 避難指示発令中】

県内各地で災害の危険性が高まっています。
命を守る行動を取ってください。

避難所の開設状況は、広島県防災Webから確認できます。
bousai.pref.hiroshima.jp/?p=evacuation%...



11:05 · 2024/11/02 · 1.3万回表示

17

20

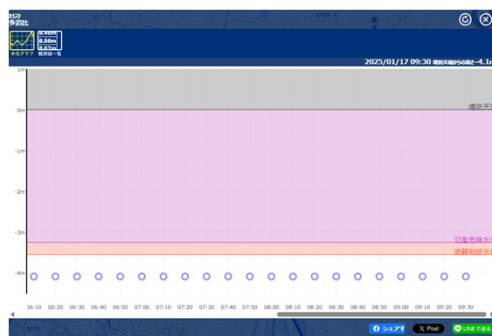
- ・危機管理型水位計による洪水時の水位観測情報を配信し、円滑かつ迅速な避難を促す。
- ・河川監視カメラによる切迫性のある河川の状況を画像で配信することで、住民の適切な避難判断を促す。

危機管理型水位計

【設置例】



【観測情報公開例】



多治比川(安芸高田市吉田町)

設置箇所数(令和7年1月末時点)

広島県全域	112箇所
江の川上流域	11箇所

○ 「川の水位情報」にて公開 <https://www.river.go.jp/index>

河川監視カメラ

【設置例】



【画像公開例】



冠川(山県郡北広島町本地)

設置箇所数(令和7年1月末時点)

広島県全域	158箇所
江の川上流域	7箇所

○ 「川の防災情報」にて公開 <https://www.river.go.jp/index>

30 小学校に対して「ひろしま防災出前講座」を毎年実施している。

**一人ひとりが
自分の命を自分で守り抜く力を身につけ、
未来の防災リーダーとなるために。**

近年多発する風水害から命を守るための意識を、
児童に持ってもらいたい



ひろしまマイ・タイムラインや土砂災害・洪水の
基本知識を学ばせたい

学校で実施している防災教育にプラスして、
外部講師による講義を受けたい



参観日や避難訓練に合わせて、講義を受けたい

今まで広島県が行ってきた、
「ひろしまマイ・タイムライン出前講座」・「砂防出前講座」・「河川出前講座」が

「ひろしま防災出前講座」



として生まれ変わりました!

〈リニューアルのポイント〉

- 基礎編・応用編など、習熟度レベルに合わせた講座を選択可能!
- 人型ロボット「Pepper」と一緒にマイ・タイムラインを学ぶ講座を新設!
- 「体験学習型」などの選べるオプションメニューを充実し、多角的な視点から総合的に学べる講座に!
- 「キッズ防災士」の認定講座を設定!

キッズ防災士認定講座

↓「キッズ防災士」の概要はこちら

https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/files/docs/topics_96cc22f19c3253b1cfcdb01cce8fe4a7_1.pdf

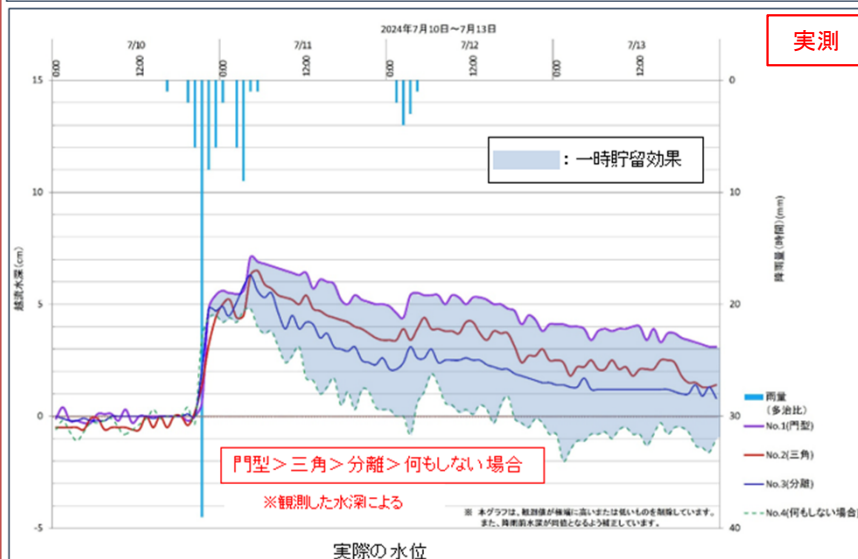
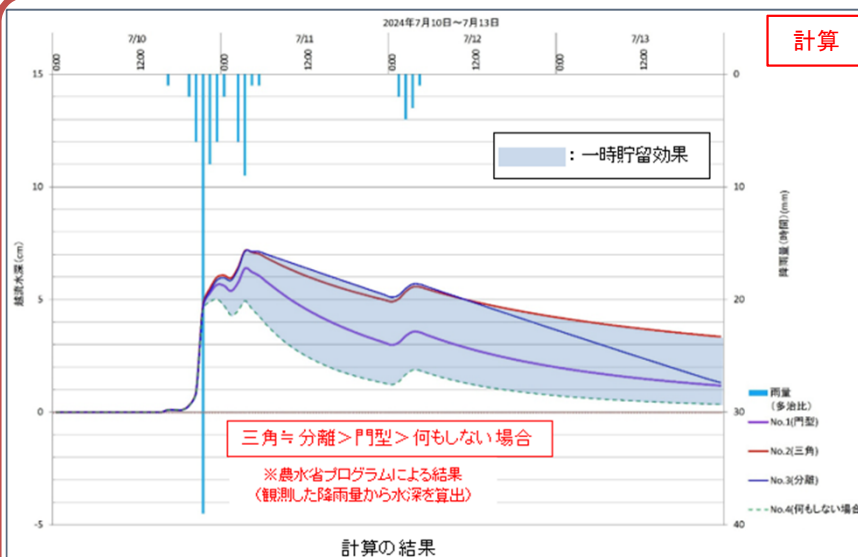


○令和6年度実施数

市 町	実施実校数 (見込み)	延べ受講人数
三次市	7校	243人
安芸高田市	5校	176人
全県(参考)	155校	12,351人

田んぼダムの取組推進に向けて、田んぼダムの効果検証を実施しました。

田んぼダム実施ほ場と未実施のほ場の水位の観測及び計算上で求められる水深との比較、各堰板の特徴等を取りまとめ、過去に作成したパンフレットとともに取組推進のため活用できるよう関係機関に通知しました。



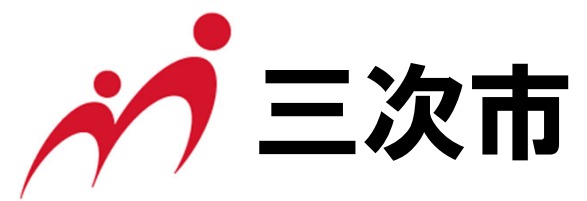
種別	写真	特徴
一体型 (門型)		- 堰板の作製が容易 - 維持管理が容易 - 計算上は効果少ない
一体型 (三角堰) (スリットなし)		- 堰底部にスリットがないものは維持管理が容易 - 形状によっては割れの可能性 - 堰板の作製が容易
一体型 (三角堰) (スリットあり)		- ゆっくりと排水される - 堰底部にスリットがあるものは草等が詰まりやすい - 形状によっては割れの可能性
分離型		- 計算上の効果は最大 - 小さな穴(φ30mm)では草等が詰まりやすい(効果は低下するが、つまり軽減のため穴を大きくすることは可能) - 排水BOXの形状によっては設置が困難

堰板の特徴

- 計算上で水深を算出した結果と、実際に観測した水深を比較すると、堰板種類の結果は異なるが、田んぼダムを実施することで一時貯留の効果があることが確認できた。また、あぜの崩れなどはない。
- 結果が異なった要因として、水管理、田面の凹凸や水のもち、排水Boxと堰板のすき間などがほ場ごとに異なることや、排水Box周りの草等が障害となり水位が上昇した可能性等の影響が考えられる。

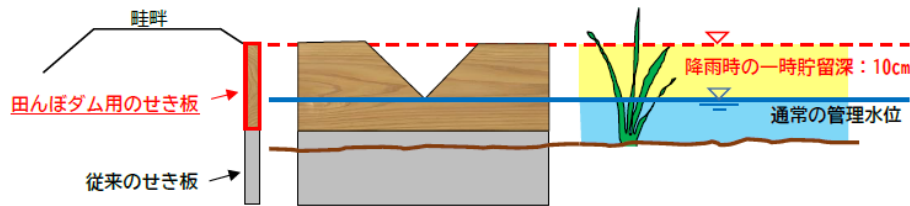


田んぼダムパンフレット

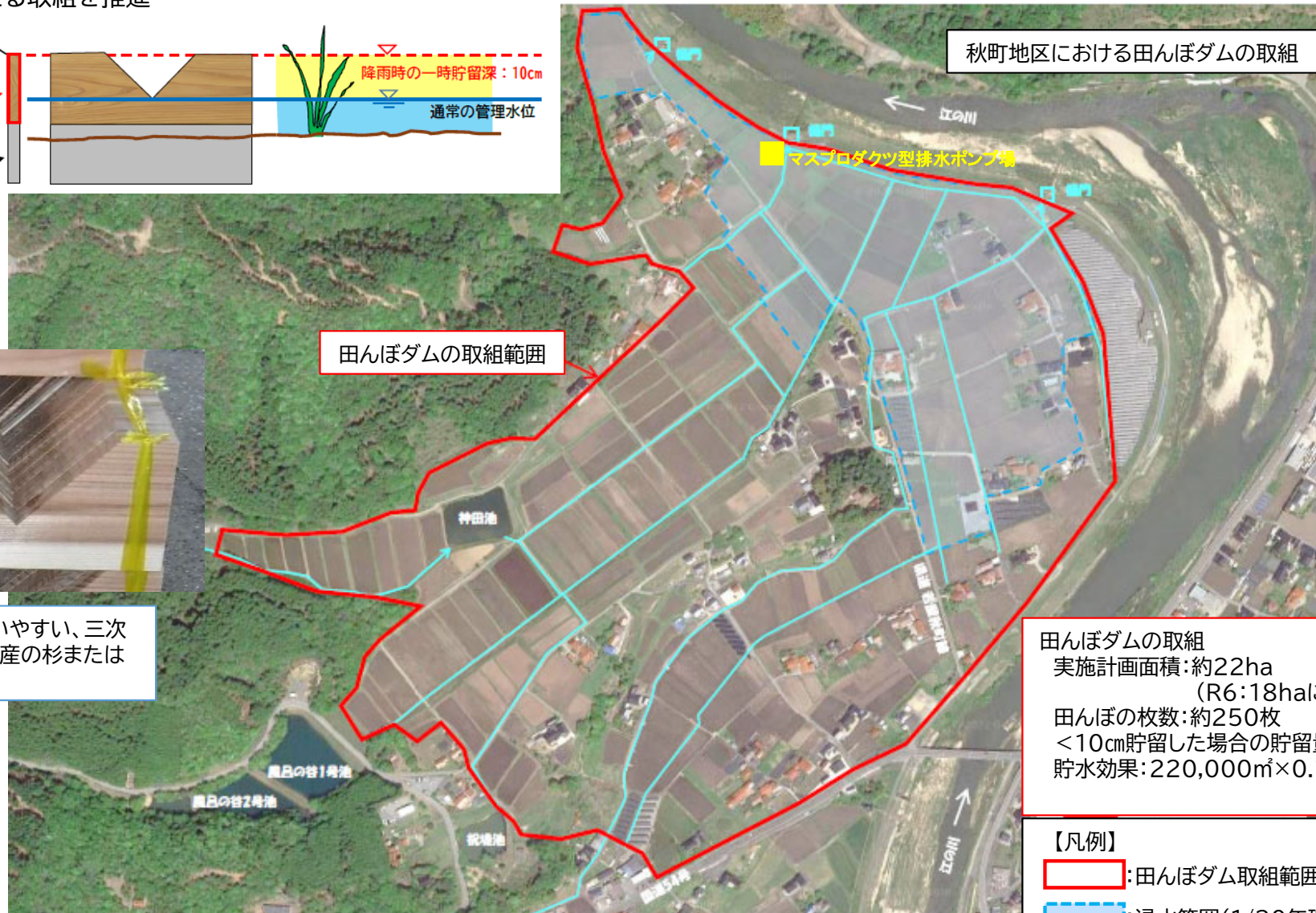


● 田んぼダムの活用

田んぼの排水口に田んぼダム用のせき板を設置することで、急激な降雨時に田んぼへ一時的に雨水を貯留し、下流の水路や河川の水位上昇を抑える取組を推進



せき板は、軽く扱いやすい、三次市産または広島県産の杉または桧の板材を活用



田んぼダムの取組
実施計画面積: 約22ha
(R6: 18haに設置完了)
田んぼの枚数: 約250枚
<10cm貯留した場合の貯留量>
貯水効果: $220,000\text{m}^3 \times 0.10\text{m} = 2.2\text{万}\text{m}^3$

【凡例】

田んぼダム取組範囲

浸水範囲(1/30年確率雨量)

主な水路

● 各種訓練・防災教育・出前講座などの実施

■ 各種訓練の実施

国・県、自主防災組織や女性消防団等の関係機関と連携し、排水ポンプ車稼働訓練、大規模洪水想定訓練等を実施した。

【大規模洪水想定訓練】(28-2, 33-3)

実対応時の円滑な運用に繋げるため、避難情報の発令手順等の確認を行った。要配慮者利用施設においては、避難確保計画に基づく訓練実施し、計画の実効性を確認した。

【排水ポンプ車合同訓練】(40)

国・県・市が所有する排水ポンプ車の稼働訓練及び連携訓練を実施し、実際の排水確認を実施した。

【避難所開設運営訓練】(2-5)

避難者の受入手順の確認、協定締結先(運輸事業者)への応援要請訓練及び実対応訓練を実施した。

■ 出前講座・防災教育の充実(27-2, 30-1)

防災士を講師に、教育課程に位置付けた体験活動教育事業(市内小学5年生を対象)を実施した。また、出前講座で要望のあった小中学校や地域講座等でマイ・タイムラインの普及と防災意識の向上に取り組んだ。



排水ポンプ車合同訓練



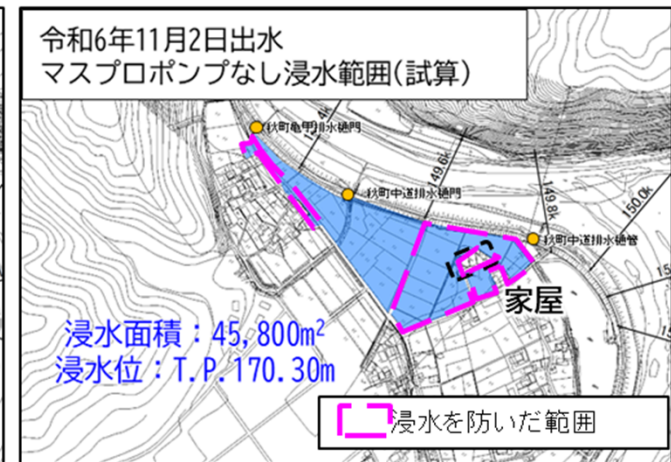
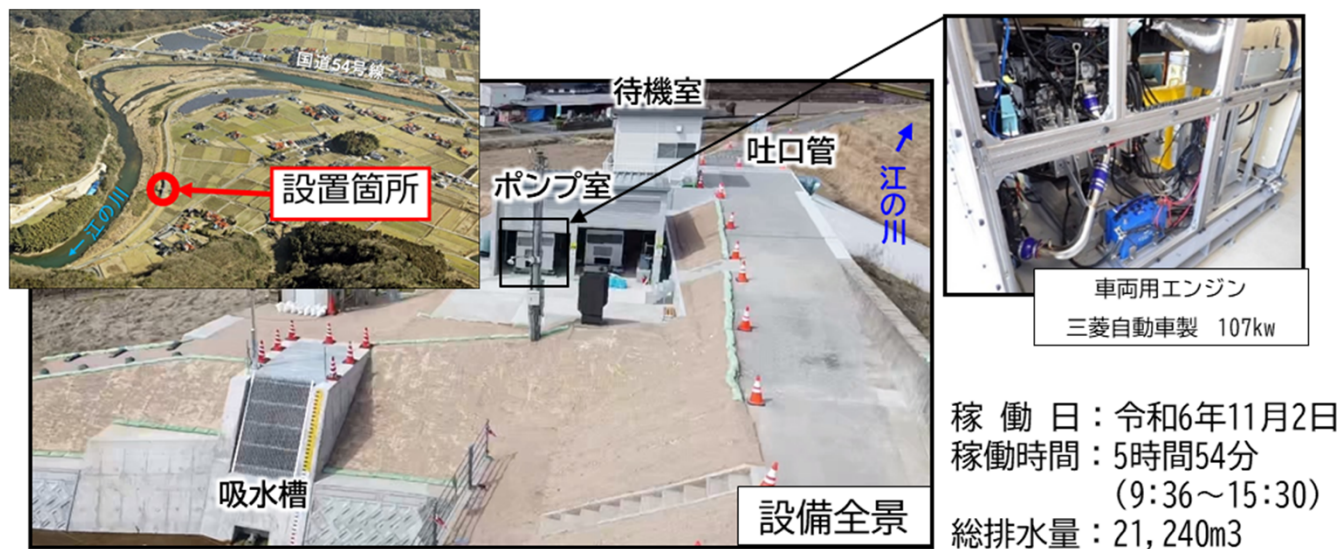
災害対策本部訓練



避難所開設運営訓練

● 避難時間を確保する効果的な排水施設の運用の実施 (16)

- 三次市秋町地区において、コスト縮減、故障時の復旧迅速化、メンテナンス性向上に対応したマスプロダクツ型排水ポンプの実証試験を令和6年度から開始。
- 令和6年11月2日の出水時に初稼働し、家屋の浸水被害発生を防ぎ、一定の効果を発揮した。



浸水面積を減少させ、家屋の浸水被害発生を防いだ





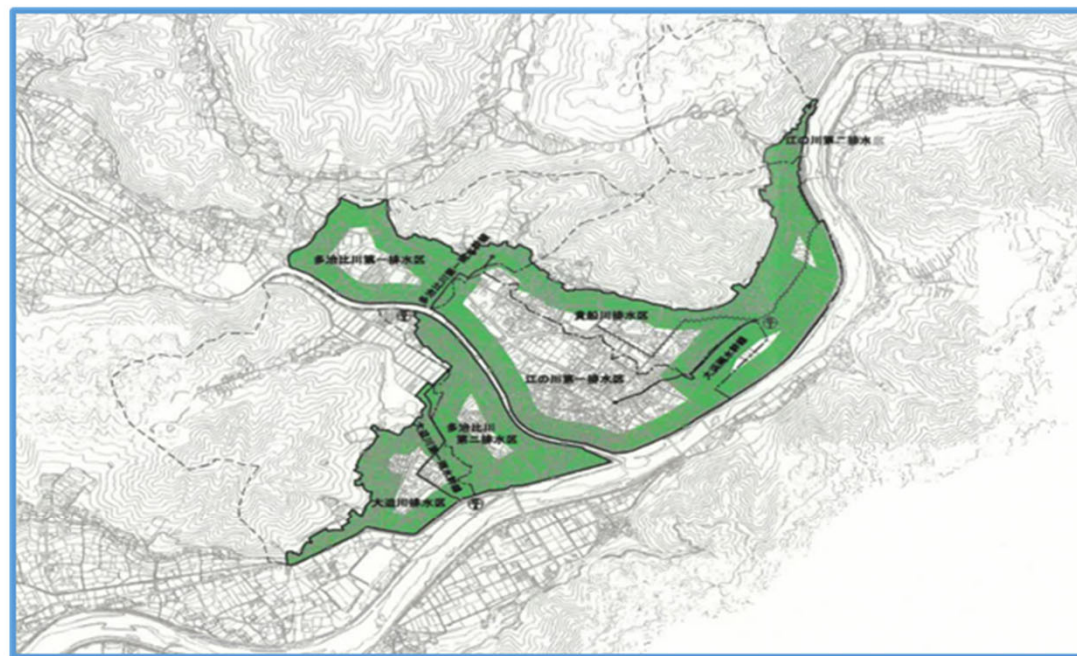
安芸高田市

①氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策（ハザードへの対策）

下水道管理者が行う特定都市下水道の整備に関する事項

- 1 江の川第一排水区
- 2 江の川第二排水区
- 3 貴船川排水区
- 4 多治比第一排水区
- 5 多治比第二排水区
- 6 大迫川排水区

R5 からR8で
「雨水総合管理計画」を策定



河川管理者および下水道管理者以外の者が行う雨水貯留浸透施設の整備その他浸透被害の防止を図るための一時的な貯留または地下への浸透に関する事項

雨水貯留浸透施設

- 1 瀬戸調整池
- 2 川向調整池
- 3 国司調整池

今後、基本検討を行い、進めていく



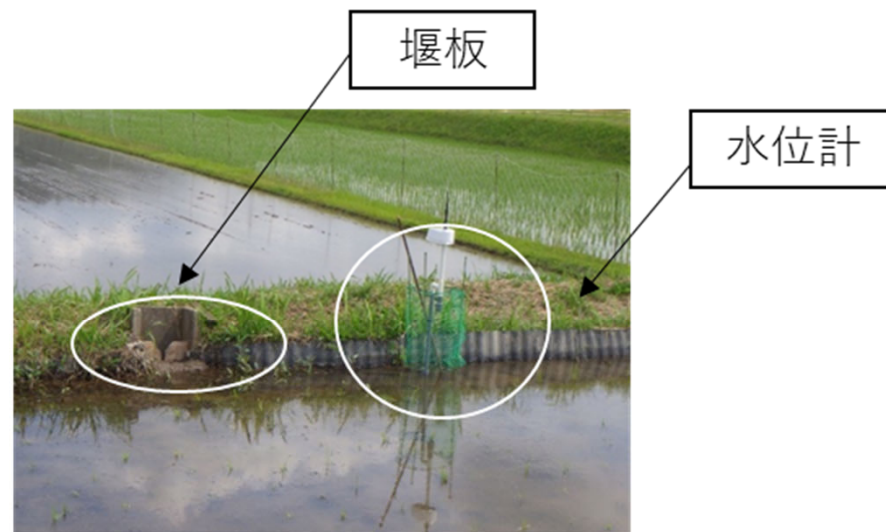
水田施設

常友地区

地元説明を実施した上で、約1.5haのほ場に広島県の事業で3種類の堰板を設置し、水位計を設置した。

1.5ha×10cmで1,500m³の貯水効果があったと想定される。

今後、堰板を作成し、対象農地へ配布予定。



32-2

- ▶ 2024年度において、16の自主防災組織に対し防災講話等を実施。（2025年1月30日現在）
- ▶ 老人クラブ連合会、高等学校、中学校、民生委員児童委員協議会、児童クラブ、高齢者サロンに向けた活動も実施中。

水害を想定した避難ルートの検討



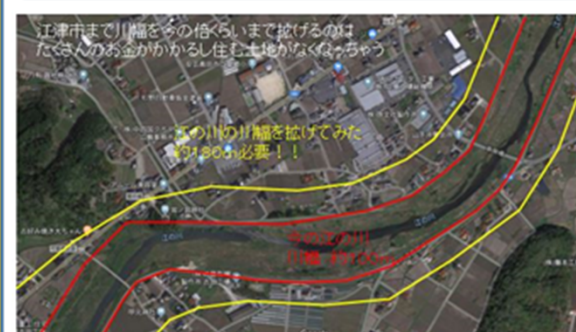
↑ハザードマップを確認しつつ、白地図上で避難ルートを検討しています。

タイムラインの検討



↑地域の特性に応じたタイムラインを検討しています。

江の川の治水機能の周知



↑土師ダム管理所から提供いただいた資料を用いて、流域住民に対し啓発を実施。

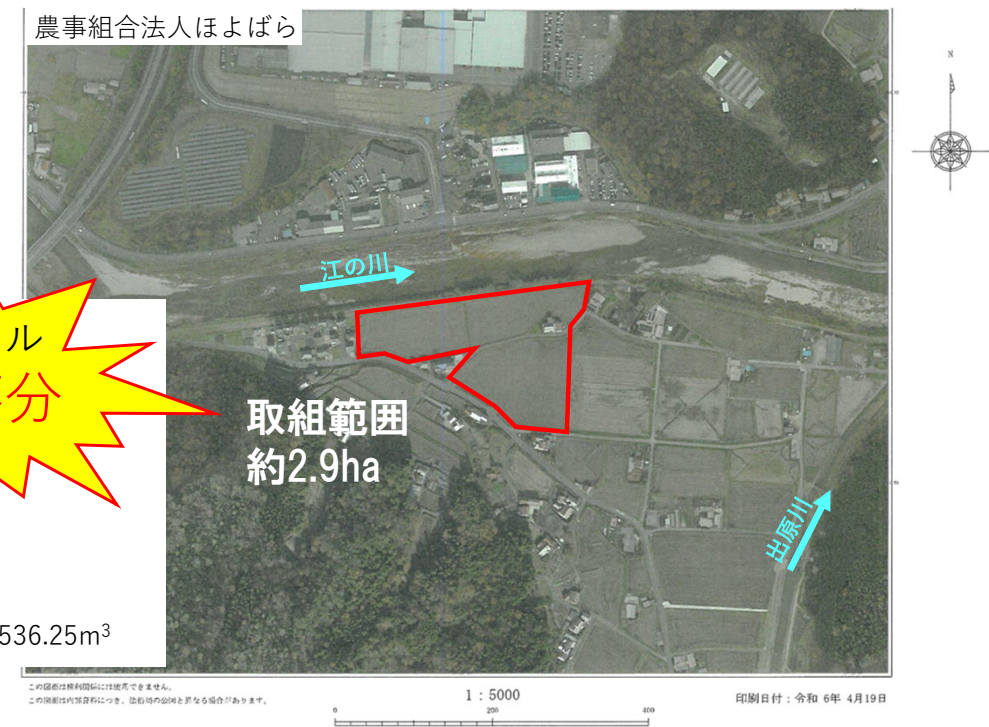


↑検討結果を踏まえ、実際に街歩きによって避難ルートの確認・検証を実施しました。

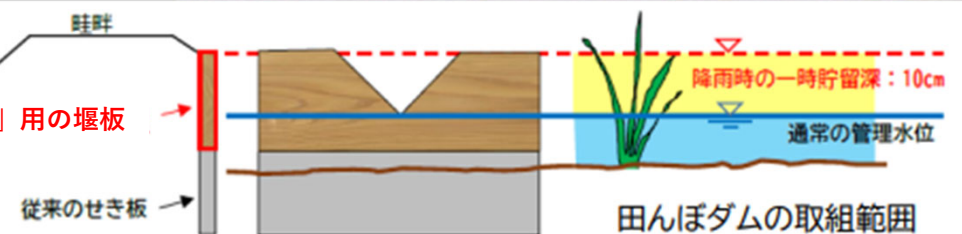


北広島町における『田んぼダム』について(試行)

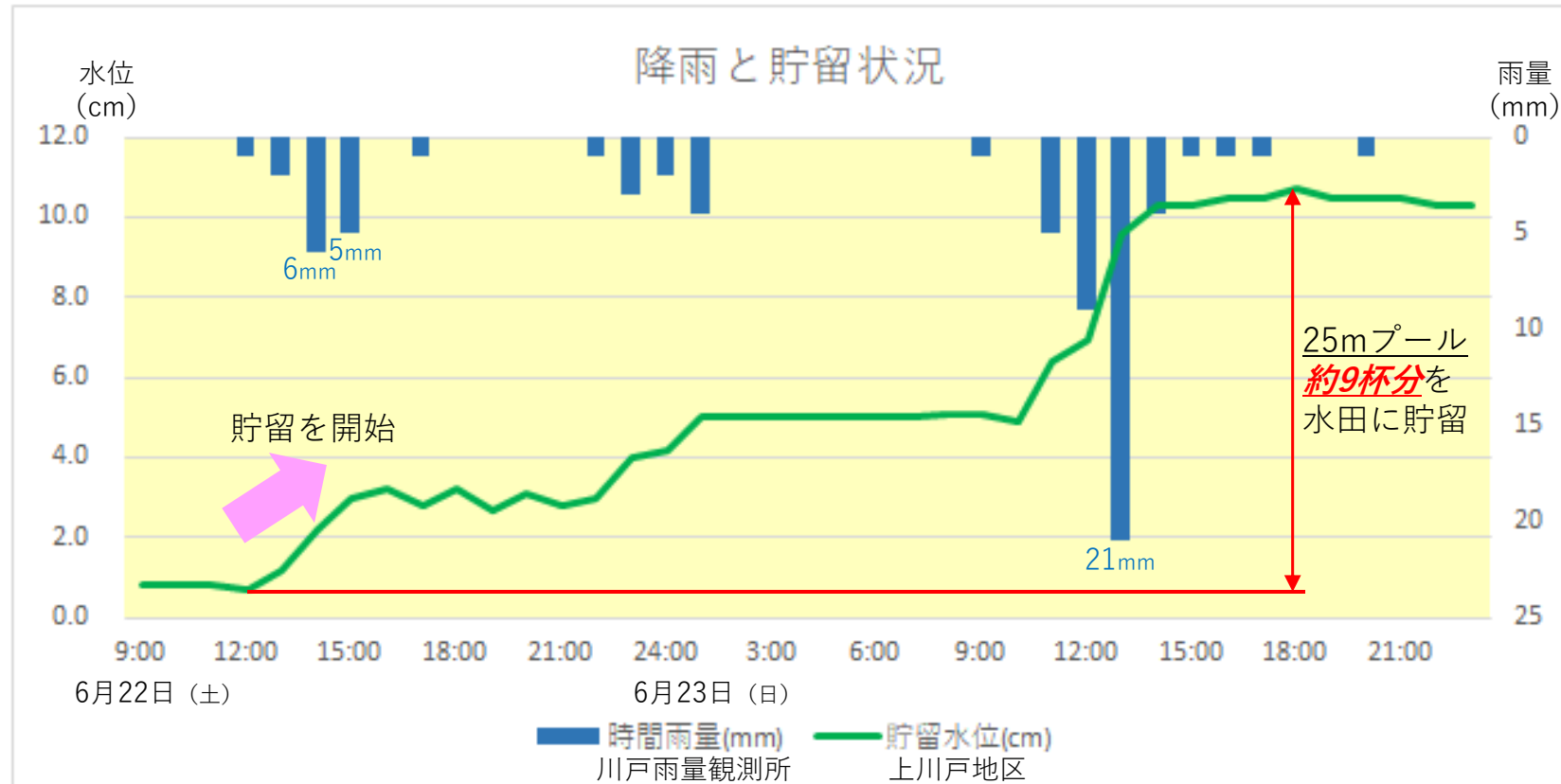
- 両地区とも6月初旬に各圃場へ堰板を設置し、『田んぼダム』の準備が完了。
- 今回の試行では最大で、上川戸地区で約5,000m³、丁保余原地区で約2,900m³の貯留を見込む。



「田んぼダム」用の堰板



- 門型堰板を設置後、初めてのまとまった降雨となった6/22～23にかけての、水田貯留状況は雨量5mm/h程度の降雨が継続すると貯留を開始すると共に、雨量が20mm/h程度で想定する水田貯留水位10cmに到達することが確認できた。



農事組合法人かみかわど

6月23日(日)に一時的な豪雨が発生したため、門型堰板による水路への排水抑制効果を確認するため、現地を確認。

【門型堰板を設置しているほ場の排水ボックス】



堰通常堰板と比べて、
堰板を超えて流失して
いない。

(農事組合法人かみかわど圃場)

【排水状況】(農事組合法人かみかわど圃場)



写真中央に水路があり、右側に門型堰板（実証ほ場）、左側に通常堰板を設置。

通常堰板を設置しているほ場からは排水量が多い。一方で、門型堰板を設置しているほ場からは排水量が少ないのが分かります。

北広島町における『田んぼダム』について(試行)

- 町内の営農団体に「田んぼダム」への理解を深めていただき、今後の取組み面積の拡大を目的に、令和6年7月31日に研修会を開催し、多くの営農者に参加していただいた。
- 研修会では「田んぼダム」に加え、自動給水機「アクアポート」の取組みも併せて紹介するとともに、実施圃場での現地研修も行い、営農者の理解を深めることができた。



スマート農業（自動水門）・田んぼダム研修会

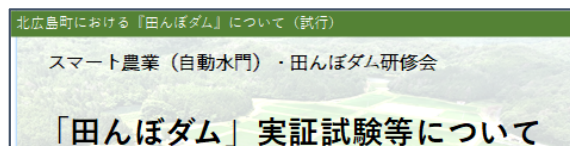
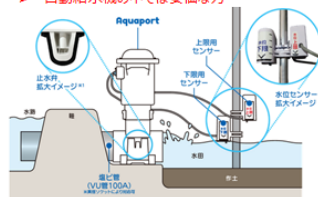
水管理における労力軽減のための
自動給水機「アクアポート」の導入について

アクアポートの導入経過

- 令和4年
 - 有間活動組織集落全体で12台のアクアポートを試験導入したところ、水管理にかかる労力を大幅に削減できた。
- 令和5年
 - 令和4年の結果を踏まえ、導入等について協議

アクアポートの概要

- 上限用センサーと下限用センサーがあり、水田の水位を2つのセンサーの間に保つことができる
 - 水が枯れるのを防ぎ、見回り回数を減らせる
- メーカー小売価格49,800円（税込・送料別）
 - 自動給水機の中では安価な方



北広島町における『田んぼダム』について (試行)

営農等への影響

- 広島県で「田んぼダム」に取り組んだ地域に聞き取った結果、営農作業への影響は、7月1日(火)：前日の6月30日に一日合計雨量42.5mmを記録したため、翌日に現地を確認。(農事組合法人かみかわど岡場)
- まが組を穿た結果、た。



【排水状況】 (農事組合法人かみかわど岡場)



写真の左側が門型堰板（田んぼダム）、右側が通常堰板を設置しているほ場からの排水。田んぼダムを実施していないほ場からの排水量が明らかに多いのが分かります。



森と共に暮らす町、北広島町

森林ビジョン概要

「北広島町新たな森林資源活用ビジョン」では、4つのテーマにおいて基本方針を定めるとともに将来の目標、戦略・施策等を整理しています。ここでは各テーマのビジョンイメージを紹介します。

1

テーマ 林業・木材産業の振興

基本方針 林業・木材産業を次世代に継承する



森林ビジョンの計画期間

森林ビジョンは2024年度(令和6年度)から2050年(令和32年度)までの計画としています。将来的なビジョン実現に向けて、令和6年度より各種の施策を推進していきます。

3

テーマ 公益的機能の発揮

基本方針 森林整備を通じ、豊かな自然と暮らしを守る



2

テーマ 町民と森林の関わり

基本方針 町民の暮らしと森林および町産木材をつなぐ



4

テーマ 新たな森林の価値創出

基本方針 森林の価値創出に向けてたゆまず追求する



➤ 出前講座を活用した防災教育の推進、水防訓練の実施

・自主防災会等の住民団体を対象とした防災教育の実施

実施日：令和6年6月9日～11月9日の計8回

実施内容：浸水キキクル、警戒レベル、タイムライン等に関する講習を実施

4-3：避難経路等の検討
11：避難情報伝達手段の普及促進
27-2：防災講習会の実施
28-2：訓練実施、33-3：避難訓練の実施



30-1：水害教育の実施

・小中学生を対象とした防災教育の実施

実施日：令和6年6月12日 壬生小学校(153名)

実施内容：過去の被災に学ぶ防災教育、避難訓練等

災害にそなえて、みんなで学ぼう。

・避難訓練ではどんなことを考えて行動しましたか？



24-3：現地点検の実施

・水防工法・実践工法訓練の実施

実施日：令和6年6月16日

実施内容：水防工法、土のうづくり、警戒訓練など



26：水防団との連携、協力

・消防署員、消防団員及び町職員を対象とした 重機操作研修等

実施日：令和6年8月5日

実施内容：災害現場を想定した重機操作研修(解体用フォーク)

実施日：令和6年11月17日 午前、午後の計2回

実施内容：災害時を想定した重機操作(掘削、積み込み、解体)

